



南房総のハズシ

[発行]

南房総教育事務所
令和7年8月22日

第14号

文責 保健体育班

日常生活とのつながりを大切にした 「生きる力」を育む保健教育

1 学校保健計画の作成と推進を！

- ① 児童生徒の健康の保持増進を図ること
- ② 学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行うこと
- ③ 自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成すること

保健教育は、保健主事・養護教諭を中心に、この3つの視点から児童生徒の資質や能力を育成することを目指して計画的、組織的に進めます。学校保健計画は、年度初めに学校医や保護者等に周知し、全職員で評価も含めた共通理解が図られていると思います。今一度進捗状況の確認をお願いします。

※保健主事：学校保健と学校全体の活動に関する調整、学校保健に関する活動の調整にあたる職員

＜学校保健計画の作成と実施＞

【内容】

保健管理に関する事項
保健教育に関する事項
組織活動に関する事項

【手順】

- ① 「情報の収集と作成方針の決定」
- ② 「目標や活動の内容の設定」
- ③ 「各組織との連絡・調整」
- ④ 「学校保健計画と決定」

※教育課程の領域の特性、担当する組織等のバランスに配慮

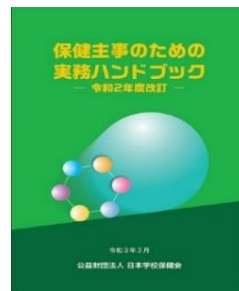
【留意点】

- ・自校の実情にあった計画
- ・学校の実態に即した適切な計画
- ・学校の教育方針、諸行事を考慮して、実施の重点項目を精選し、有機的な関連をもたせる
- ・保健管理と保健教育の関連を明確化
- ・各関係機関との連携、調整
- ・責任分担を明確化
- ・PTA、家庭や地域社会の保健活動との連携
- ・学習指導要領解説総則編付録を参考にし、カリキュラムマネジメントの内容を盛り込む

【実施にあたって】

- ・ねらい、日時、場所、対象者、運営の役割分担、活動の流れ等がわかる実施計画や運営案
- ・保健部会等を計画的に行い、実施状況を確認
- ・学校医、学校歯科医、学校薬剤師との協力関係が円滑なものになるように連絡、調整を密にする
- ・児童生徒の自発的、自治的活動を盛り上げるようにする
- ・教職員の健康管理にも配慮する
- ・計画の評価を適切に行い、次年度の計画に役立てる

文部科学省 実務ハンドブック



学校保健計画は、児童生徒の実態把握に始まり、「生活習慣」「メンタルヘルス」「性に関する問題」「感染症」等の情報をもとに、学校行事や教科指導、特別活動との関連を踏まえて作成されています。

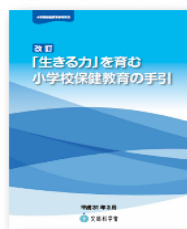
2 児童生徒の健康課題の解決を図る保健教育の推進を！

児童生徒を取り巻く環境は、児童生徒の心身の健康状態や健康に関わる行動に大きな影響を与えているとされています。特に、近年では、様々な健康情報や性・薬物等に関する情報が容易に入手できる状況にあります。**児童生徒が健康情報や性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等を徹底することが課題となっています。**引き続き、文部科学省や千葉県教育委員会の資料を活用していただきながら、知識及び技能の定着に留まることなく、知識及び技能を活用できる実践力の育成に向けた保健教育の推進をお願いします。



※心は、学習における「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に関わる部分で育てます。

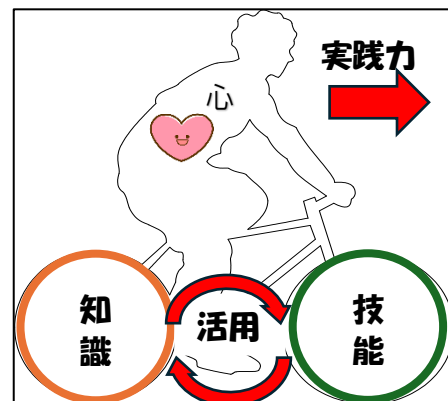
【文部科学省】(改訂)「生きる力」を育む保健教育の手引き



小学校【青】



中学校【緑】

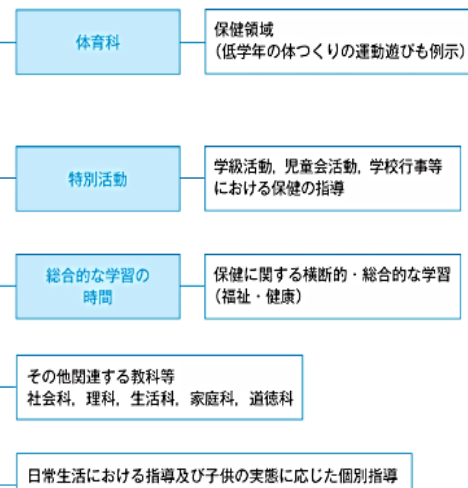


3 各教科等の特質を生かした保健教育の推進を！

保健教育は、児童生徒の実態を適切に把握し、教育目標の実現に向けて、教科等横断的な視点で組み立てます。

保健領域（保健分野）、特別活動、総合的な学習の時間など関連する教科等のそれぞれの特質に応じて進めていき、相互に関連させて指導していく必要があります。また、各教科の年間指導計画と学校保健計画の内容が一致するように整合性を図ることも大切です。各教科と連携し、計画に沿った保健教育が進められているか見直してみましょう。

保健教育



4 効果的な一単位時間の進め方（例）

保健領域（保健分野）の指導については、**知識と現実の事象を関連付けて理解できるようにすること、深い理解の習得ができるようにすること、児童生徒が考える場面と教師が教える場面の組み合わせを工夫すること**、が重要です。児童生徒が課題を見つける学習過程を設定し、課題解決のための具体的な手立てを考えましょう。また、小学校、中学校の保健における学習内容の系統性を意識し、それぞれの発達段階に応じて指導を工夫すること、運動領域（体育分野）との指導内容の関連を踏まえることが大切です。以下、例を示すので、ぜひ参考にしてみてください。

過程・学習内容と活動	指導のポイント
【導入】（5分程度） *1 （前時の振り返り含む） 1 本時の学習課題について考える （発問） <予想される反応>  *2	*1 実態に応じた身近な内容を取り扱い、自分事として考えられるように児童生徒の関心を高める。 児童生徒の「なんでだろう？」につなげる。 ICT 等を活用し、実態調査の結果、グラフや資料、映像等を提示する。 家庭の事情等、生徒指導上、配慮が必要な児童生徒がいる場合は、教師の発言や取り扱う内容に十分注意する。
【展開】 2 学習のねらいを知る。 *3 （ねらい）	*2 ICT 等を活用し、考え方の基になることや学習した内容を引き出し、本時との関連を図る。
「保健教育で用いられる指導方法の例」 ・ブレインストーミング ・実験や実習 ・ロールプレイング ・フィールドワーク ・視聴覚教材や図書 ・事例を用いた活動	○学習課題を提示し、本時のねらいを押さえる。 *3 本時のねらいは、1 時間を通して児童生徒が目に見える場所に記載する。（ICT 等を活用する場合も同様） 〔小〕：より実践的に考えられるように指導の工夫をする。 〔中〕：より科学的に考えられるように指導の工夫をする。 「（改訂）「生きる力」を育む保健教育の手引きより」
3 ICT や提示資料等を活用し、個人で「○○の意味」や「○○について」書き出したり分類したりする。 *4 （発問） <予想される反応> 	*4 意味や要因、方法等について確認・説明をしながら全体で共有を図る。 （養護教諭・医療機関等との関係機関と連携した指導も可） ○個人またはグループごとにまとめ、発表する。 ○日常生活や自分の行動と照らし合わせながら考えられるように助言する。
4 ICT や提示資料等を活用し、個人またはグループで目的に沿った実践的な活動や協働的な活動に取り組む。 *5	*5 学習した内容を日常生活に生かしている児童生徒を称揚し、児童生徒が学校での学びと日常生活のつながりを再認識できる機会を設定する。
【まとめ】（10分程度） 5 学習を振り返り、自分の考えをワークシート等にまとめたり、発表したりする。 *6	*6 「ねらい」に対する評価・振り返りを行う。 ○ 学習内容と日常生活の関連についての配慮や言葉がけを行う。 （今後の生活を見つめ直すきっかけづくり）

参考文献：小学校・中学校学習指導要領解説（平成29年告示）、（改訂）「生きる力」を育む保健教育の手引き（文部科学省）